

平成30年度生野区区政会議 第3回全体会

1 開催日時

平成31年2月13日（水） 19時00分～21時09分

2 開催場所

生野区役所 6階 大会議室

3 出席者

（区政会議委員）22名

栗信委員、和田委員、山本委員、猪股委員、服部委員、米川委員、高岡委員、新井委員、辻浦委員、杉浦委員、川上委員、村上委員、森口委員、亀田委員、室谷委員、松田委員、林委員、田中委員、清水委員、新藤委員、伊藤（廣）委員、川端（麗）委員

（大阪市会議員）4名

木下議員、黒田議員、武議員、山田議員

（その他関係者）3名

北尾一、多田龍弘、田中照章

（生野区役所）19名

山口生野区長、深見副区長、橋本企画総務課長、松並安心まちづくり担当課長、中村地域まちづくり課長、大川教育委員会事務局総務部学校適正配置担当課長兼生野区役所地域活性化担当課長、山本保険年金担当課長、大西都市整備局生野南部事務所長、上浦生活支援担当課長、岩本窓口サービス課長、清水区政推進担当課長、山口保健福祉課長、川阪教育委員会事務局学事担当部長兼生野区役所こども未来担当部長、井平生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長、山戸地域福祉推進担当課長兼政策推進担当課長、樋口教育委員会事務局総務部首席指導主事兼生野区役所こども未来担当課長、村山市民局区政支援室地域安全担当課長兼生野区役所住民運動支援・調整担当課長、杉本企画総務課長代理、戸川企画総務課長代理

4 委員に意見を求めた事項

（1）平成31年度生野区の実施計画について

資料1 平成31年度生野区の実施計画

参考資料1 平成31年度生野区運営方針（案）：全編

参考資料2 平成31年度生野区関連予算案

参考資料3 事前にいただいたご意見と区の実施計画

(2) その他

参考資料4 前回の全体会でいただいたご意見・ご提言（要約）と区の考え方、対応

参考資料5 平成29年度生野区区政会議委員評価シート（集計結果）

5 会議内容

○和田議長

皆さん、こんばんは。議長の和田でございます。それでは、ただいまから平成30年度第3回区政会議を開催いたします。すみません、座って失礼いたします。

区政会議は、区民が主役として地域の運営に当たるために、課題解決のため、どう取り組むべきか、また課題解決に必要な行政とのパートナーシップとは何なのかを建設的に提案する、そういう趣旨の会議となっております。よって、委員の皆様個人の感想ではなく、地域を主体的に運営する見方に立って、意見を交換し、議論を深めるという姿勢で、積極的なご発言をお願いいたします。

それでは、開催にあたり山口区長からご挨拶をお願いいたします。

○山口生野区長

皆さん、こんばんは。夜の出にくい時間にお集まりいただき、誠にありがとうございます。

本日は、この区政会議の全体会を行うということで、説明毎回長くて申し訳ないんですけど、できるだけ短くしまして皆さんのご意見をいただけたらと思っております。平成31年度の生野区の運営方針の方向性ですね。まちというのは、やはり急に災害が多かった年があって、いろんな課題が見つければ、その解決をしなければということで、また方針がちょっと変わったりであるとか、あとはやはり4月に入管法の改正もありますので、外国人労働者が、また生野区で、もともと住んでいる外国の方が多いたくさん増えるのではないかなということであったりとか、あとインバウンドの流れであったり、万博が決まったことによる、今後の大阪の方向性であったりさまざまな要因が日々変わっていく、2年前ここに来たときに、生野区に対して思っていた課題意識とまた違うものが、優先順位がどんどんと入れ替わっていくような感触があります。皆さんもぜひ地域それぞれで、またお立場それぞれで実感する変化を受けとめていただいて、この議論の中に盛り込んでいただければありがたく思います。今日はよろしく願いいたします。

○和田議長

ありがとうございました。

それでは、お手元の会議次第に沿いまして、議事の1つ、平成31年

度生野区の取り組みについて区役所からの説明をお願いいたします。

○杉本企画総務課長代理

皆さん、こんばんは。ただいまから、生野区役所の来年度の取り組みにつきまして前方のスクリーンにて、ご説明いたします。

私、生野区役所の企画総務課の杉本と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。

お時間も限られておりますので、テーマを絞ってのご説明になりますので、よろしくお願ひいたします。

まず、こちらのフレーズですけれども、この「居場所と持ち場」というフレーズ、これまでも何度も皆さん見られたかもしれませんが、生野区役所が、これまでも、そしてこれからも目指している生野のまちの姿でございます。「居場所」とは、誰もが安心して暮らせるためのセーフティネットが機能しているということと、「持ち場」というのは自分の得意技や、経験、力を活かしまして、みんなが関わることを意味しております。区民の誰もが、一人、一人居場所があり、そして持ち場を備えているまちを生野区として目指しております。

続きまして、少し概要に関して、続きますけれども、今の日本の社会は、先進国でとても成熟しております。いわゆる公共という分野につきましても、もはや行政機関というか、役所だけでは成り立たないような時代になっております。実際、区民の皆さんにも何らかの公共の担い手としてたくさんの分野で支えていただいていると思います。つまり、公共の分野においても「居場所」と「持ち場」、これがあるようなまちが望まれると考えております。こちらがイメージ図になりますが、区役所は基礎自治体の中でも、特に住民の皆さんに一番近いところで公務を担っておりますが、行政としまして区役所として公共のためにどんなことができるか、もちろん公権力の行使とか、本来の行政機関の業務はもちろんございますけれども、そういった以前からあるもの以外でどういったことが可能なのかとか、また、あるいは図の右側の民間、地域住民の方にどんなフォローができるか、あるいは民間だからこそ、住民だからこそできることは何かとか、そして一番大切な、図の真ん中の「協働」というところで、行政と民間が一緒になってどういうことができるかについて、委員の皆様のお知恵をいただけたらと考えております。

それでは、今からテーマに沿ってご説明いたしますが、こういった考え方を前提にしながら、生野区の来年度の取り組みということで、資料1というのは少しボリュームもございますので、本日はテーマを3つに絞りまして、ご説明させていただきます。どれも大切なテーマでございます。

まず、一つ目、「防災と地域福祉」でございます。このテーマは非常に意味合いが広いのですが、区民の皆様の安全と安心にかかわる非

常に大切なテーマとなっております。防災と言えば去年大きな地震がありました。日本はとにかく自然災害が多いので、生野区役所としても地震のときは、直ちに本部を立ち上げて、避難所の開設準備、その後は余震に備えてしばらくの期間は24時間の連絡体制をとりました。また、区役所でする通常業務でございますが、地震発生が始業前であったため、被害状況を見ながらできる限りの人数で業務を行いました。そういった経験から見えてきた課題としまして、スクリーン上に2つございますが、やはり状況によっては通常の業務を一部停止するという形で、非常時の優先業務をあらかじめ選定しておいて、迅速な対応が行えるような体制が必要ではないか。もう一つは、一時的に電話が不通になるといった、いろんな情報のやりとりができなくなったことございまして、緊急時に連絡体制をどう構築していくか。そういったことを課題として今後とも引き続き検討していきたいと思っております。

続きまして、台風も2つ大きなものが近畿に襲来しまして、大阪でもあちこちで風水害の被害があり、避難所も開設されました。21号のときには生野区でも、区独自の判断で朝の11時ごろには区内の19の小中学校に避難所を開設しまして、24号のときは、21号の経験もあって朝の9時から区内の全ての小中学校に避難所を開設し、また地域でも2カ所の避難所を自主的に開設していただいたということで、この台風災害から見えてきた課題としましては、高齢者や要支援者はすぐに、なかなか避難所に向かえるというわけではございませんので、そのあたりも考慮して、どのタイミングで避難所を開設するかといったことや、避難所の開設の情報をどうすれば、より広く区民の方に伝達できるか、あるいは避難所の開設や運営について地域住民の方との連携をどうしていくか、いずれもとても重要なことですが、引き続き関係機関や住民の皆さんと検討を進めていきたいと思っております。

こちらは最近配信されました生野区のウェブ版の「防災水害ハザードマップ」というものでございます。スマホでも対応しておりますけれども、簡単な操作で今、自分のいるところから近くの避難場所がわかったり、あるいは地震とか、水害とかのパターンで被害想定が地図上で簡単にわかるようになっておりまして、しかも多言語でも対応、日本語だけではなくて英語、中国語、韓国語、ベトナム語で対応しております。皆さんもぜひお試しくださいと思っております。

続きまして、こちらですが少子高齢化、核家族化という、これは日本全体もそうですけれども、地域コミュニティがどうしても希薄になりがちです。生野区は、市内の都心部と比べまして、地域の皆様のコミュニティはまだ盛んだとは思っておりますが、少子高齢化は間違いなく進んでおります。そのために災害時の避難支援はもちろんのこと、日ごろからの見守りでは、住民同士の顔の見える関係づくりというの

がとても重要になってきます。地域で福祉を支えるということで、いわゆる地域福祉の重要性につながってくるかと考えております。生野区でも地域住民同士のきめ細かな見守りネットワークづくりを支援するために、要援護者の名簿の作成に取り組んでおります。もちろん名簿に掲載されるのは個人情報ですので、ご本人の同意が必要でございます。その同意確認をさせていただきながら、区内の全19地域で名簿をつくりまして、地域にお渡しして日ごろの見守り活動に役立てていただいております。これらの名簿は当然、毎年メンテナンスをしていく必要があるので、引き続き次年度も取り組んでいきたいと思っております。

続きまして、テーマから少し外れるんですけども、自転車マナーの向上でございます。安全、安心ということでは似通ったテーマではございますが、実は、生野区は自転車事故が多く、交通事故の割合の約半分、大阪市内だけではなく、府下でワースト1となっております。どうしても個人の方の自転車マナーの向上が欠かせないと考えておまして、区役所としましても警察や地域と連携しまして安全で適切な利用を周知、啓発していきます。

ここで周知、啓発に関して少しまた別のお話ですが、補足としまして、必要な情報を区民の皆さんに確実にお届けできるように、この4月から「広報いくの」という広報紙がございます。これを全戸に配付する予定で、今、31年度予算案に盛り込んでいることも合わせて申し上げます。

ということで、この1つ目のテーマのポイントですけども、1つはあらゆる危機事態をいかに想定して、いかに実践できるかということと、あと平時、日常も災害時でもいかに要支援者の方をとりこぼさずに支援できるかというところがポイントになってこようかと思っております。

続きまして、2つ目のテーマ、こちらも生野区としては非常に特徴的なテーマでございます。「多文化共生」ということになっております。生野区の外国籍住民の比率は約2割を超えています。しかも、都市部では全国で1位となっております。うち在日の方は8割を超えて、なかなか高齢化、あるいは孤立化といった問題も、出ておまして、今なおヘイトスピーチといった問題もございます。最近でいうとニューカマーとしまして、ベトナムの方とか、いろんな国の方の留学生が来られまして、急に増えております。国籍も60カ国ぐらいに及びまして、非常に多数の国籍の方がおられる。しかも国のほうでは外国人労働者の受け入れをもっとしていこうという動きがございます。改正入管法がこの4月、もう2カ月もないですけども、施行されます。それによって外国人労働者の就労機会が拡大されるというふうに、どんどんこれから外国人の方もより増えていくということが見込まれてお

ります。こちらは外国人に対して日本のマナーを啓発、指導しようということで、生野区で取り組んでいるもので、左側が放置自転車のエフですね。つないで取り付けるんですね、自転車に。右側が、ベトナム語の分です。また、ごみのマナーということで、こちらが多言語でベトナム語で訳したものもやっております、日常生活におけるマナーというのを多言語で、これからも周知、啓発を進めていきたいと思っております。

続いて、こちら「やさしい日本語から、つながろう」というテーマでございますが、生野区ではいろんな国籍の外国人とか、日本人が互いに交流をしてわかり合える、そういったコミュニティづくりのために、昨年から進めております事業でございます。こちら「やさしい日本語」というのは、いつもの日本語を、難しい言葉を使わずによりシンプルに平易な言葉にしたものです。それぞれこれまで、やはり言葉の違う外国人、あるいは日本人が同じ「やさしい日本語」を使うことで、それをきっかけにして、これまで通じなかったことが通じるようになっていたり、交流のきっかけになりましたり、コミュニティの潤滑油になるような役目を果たせるのではということで、今現在取り組んでおります。

こちらは缶バッジでございます。これは「『やさしい日本語』を私は話します」、あるいは「『やさしい日本語』を話してもらえませんか」ということを、バッジをつけてPRをすると。その下の部分は「やさしい日本語」のステッカーですね。店舗に貼ってもらおうステッカーですけども、その店舗でも「『やさしい日本語』で話していますよ」というところをPRするためのステッカーでございます、こういったものを広げていきたいと思っております。その隣の生野区の地図ですけども、これが今申し上げましたステッカーを、「やさしい日本語」に協力していただいている店舗に貼っていただいておりますが、それを紹介したマップになっております。生野区のマップということで、そのお店をプロットしたものでございまして、そういったことを、これからもどんどん発展、浸透させていきたいと考えております。これらは生野区のホームページでもダウンロードできるようにしております。

この2つ目のテーマのポイントは、やはり「人権尊重」ということで、当たり前ですが、人権を尊重することをベースに考えていくということと、そしてみんなが互いに「地域住民の一員」として、皆さんが安心して暮らせること、これがポイントになろうかと考えております。

続いて3つ目のテーマでございます。「次世代の学校づくり」と、「リノベーションまちづくり」でございますが、時代の変化に対応できる「未来を生き抜く力」の育成ということで、なかなか時代の変化

が今激しくて、非常に世界情勢もいつでもネットでリアルタイムに把握できたりとか、経済のグローバル化とか、あるいは技術革新とか、AIロボット技術も進化しているとか、いろんな、本当に時代はどんどん変わっていきます。そんな中でどうすれば今の子どもたちが、これから社会に出て十分に対応できていくのか、こういった問いかけがございまして、生野区では、時代の変化に対応できる「未来を生き抜く力」を育成するために、「生野の教育」の実現に向けて取り組んでいるところです。学習習慣の定着はもちろんのこと、自己肯定感の醸成とか、あるいはキャリア教育、性・生教育など自分の将来像の実現に向けて、子どもたちが自分の力で未来を切り開いていく力を身につけることができるように、子どもたちの将来を見据えた支援を続けていきたいと考えております。

続きまして、生野区の西部地域学校再編整備計画の推進でございますが、これまでも保護者、地域の皆様と意見交換を交わしながら、学校再編の整備について進めてきているところでございますが、こちら、この春に開校する桃谷中学校の制服と校章でございます。勝山中学校と鶴橋中学校が再編しまして、勝山中学校に、新たに桃谷中学校が誕生するというところでございます。引き続き保護者、地域の皆様からご意見をいただきながら学校再編についてのご理解とご協力を得られるように努めまして、再編の対象となる4中学校区全てのところで学校設置協議会の設置を目指しまして取り組んでいきたいと考えております。

続きまして、こちらは今まだ構想を検討中のテーマでございますが、新たな公民連携の形としてのリノベーションまちづくりというコンセプトです。西部地域の学校再編においても、学校の跡地利用については、地域ニーズを踏まえながらまちづくりの観点から検討していくということとされておりますから、再編に伴って生じる学校の跡地は防災拠点としての機能を持たせながらも、学校跡地を核に、周辺にある空き家、空き地、そして生野区の地域資源でもありますグローバルな地域性、ものづくりなどをうまく活用、連携させることで、エリア全体の価値を上げてまちの魅力向上、地域の活性化を図れないかといったことを、引き続き検討を進めてまいりたいと思っております。こちらはリノベーションまちづくりの構想の中で出ているフレーズです。「みんなの学校」というアイデアでございまして、学校跡地の活用として子どもから大人まで誰もがみんな学べる学校を意味しておりまして、そこから生野のまち全体で学べる、「まちぐるみ教育」という考え方がなされております。

こちらが、その「みんなの学校」のイメージ図ということで、このイメージ図ですが、今月2月2日に開催されました「リノベーションまちづくりフォーラム」で使われたものから引用しております。誰も

が学べる「みんなの学校」というものは、それぞれの特色を持ちながら周辺エリア全体の価値を高めていき、まち全体として学べる場としての「まちぐるみ教育」というのを実現しようということとございます。このフォーラムの様子は、現在も生野区役所のホームページにてユーチューブで配信しておりますので、また皆さん機会があれば、ぜひご覧いただきたいと思っております。

そこで3つ目のテーマのポイントとしましては、まず次世代を見据えた教育環境のあり方はどうあるべきか、そして再編による学校跡地を核にして、どのようにまちづくりを進めていくのかということになるかと思われまます。

ここで少しデータを紹介していますが、これは国勢調査をベースに生野区の将来の人口推計をグラフにしたものでございます。ちょうど赤の点線の丸いところを見ていただきたいんですけど、年少人口の分は0歳から14歳、この人口推計では、このままでは生野区でも、どんどん年少人口が減り続けてきまして、2040年の見込みですけれども、区内で8,000人程度になるかと思われております。

24区でどうかということではありますが、こちら年少人口の減少幅を市内の24区で見たものです。色がそれぞれありますけれども、色が濃くなるほど減少の幅が高くなっておりまして、生野区でも6,000人から7,000人ぐらひは減少の見込みとなっております。生野区にはこういった人口の減少問題に加えまして、空き家とか、老朽家屋の密集の問題とか、あるいは企業の後継者の問題、あるいは地域活動の担い手の問題など、さまざまな課題が迫っております。このままでは生野区はまちとして持続できるか、その次の世代に引き継いでいけるのかといった大きな問題が浮かび上がってきます。

ということでテーマの1から3、3つ上げていしましたが、これを通じて得られるポイントといたしましては、どうすれば生野区が持続可能なまちとなりまして、そして今の世代からこれからの世代へ、このまちをどういうふうにして引き継いでいけるのかということになるかと思われまます。

また繰り返しになりますけれども、区役所にできること、そして地域住民の方にできること、そして何より協働してできることについて皆さんと一緒に考えていければと思ひます。

それでは、委員の皆様活発な意見交換よろしくお願ひいたします。

区役所からのご説明は以上になります。どうもありがとうございました。

○和田議長

ただいま区役所のほうから説明がありました。これから委員の皆様意見交換をしていただきますが、限られた時間です。より円滑に意見交換をしていただけるよう、私のほうから、学識委員を代表して、

田中委員にファシリテーターをお願いいたします。

それでは、田中委員、よろしくをお願いいたします。

○田中委員

そうしましたら、議長からご指名いただきました田中と申します。どうぞよろしくをお願いいたします。すみません、座って申し訳ないです。

これから、委員の意見交換のお手伝いをさせていただきますので、どうぞよろしくお願ひします。

先ほどの区役所からの説明なんですけども、配付資料などについて、皆様何かご意見等ございませんでしょうか。

これからお話しいただくんですけれども、かねてから対話をもちたい、対話の場をもちたいというご意見がございましたので、できるだけお互いの意見を尊重しながら、それぞれの方、いろんな方にお話をいただいて、なるべくお一人の方、時間短縮していただいているような方にお話をいただきたいなと思っています。

あと、それぞれのご意見の中で、相手のご意見を批判するのではなくて、それだったら、こういう意見があるよ、こういうアイデアがあるよと、知恵をお聞かせいただければありがたいかなと思いますので、よろしくお願ひいたします。ご発言いただく際には、お手を挙げていただいてお名前と、それから部会名なんかもお話しくださいたらありがたいかなと思いますので、どうぞよろしくお願ひいたします。

そうしましたらどなたでも、最初のご意見しゃべっていただく方というのはすごく緊張するかと思うんですけれども、どなたでも遠慮なくおっしゃってください。はい、手が挙がりました。すみません、お願ひいたします。

○辻浦委員

東中川連合から参りました辻浦と申します。

先ほど自転車のマナーとかも出ましたけども、私びっくりしたのは、朝早く、朝3時ごろから歩いているときあるんですけど、そのときに車で、ヘッドライトつけずに走っている車を、1週間に2回見たんです。こんなの僕今まで見たことがなかったです。だから、これも自転車のマナー等含めて皆さん信用できないかもわかりませんが、本当に僕びっくりしました。そういうことがありましたので、ちょっとご報告しておきます。

○田中委員

ありがとうございます。

何か自転車のマナーの点で、こういうことをしているとか、何か地域でこういう取り組みをやっているよというお話がありましたら、お聞かせいただければ、せっかくお話しいただいているので、いかがでしょうか。

何か自転車、結構最近ですね、自転車道なんかも矢印を使って表示して、通れるようにはしているんですけども、何か結構歩行者に対して危ないとかっていうことも言われているようですけどもいかがですか。地域で危ない思いをしたことございますでしょうか。

最初なので、ちょっと意見が言いにくいですかね。いかがですか。

ちょっとよろしいですか。こちらのほうからお声掛けしてしゃべっていただけますでしょうか。皆さん。ちょっと緊張しますか。よろしいですか。勝手に当てさせてもらってよろしいですか。西岡さんいらっしゃいますか。ごめんなさい、いらっしゃらないんですね。新藤さんいらっしゃいますか。お願いします。

○新藤委員

御幸森の新藤ですけど、自転車云々、どちらかが加害者、被害者、一瞬で入れかわることがあります。やっぱりお互い注意というのか、僕も防犯やっていて、そういうのはたくさん感じるんですけど、今電動自転車か、ああいうのは一番急発進、それをコントロールできない、特に女の人ですかね。それは多いですね。それと信号無視、もちろん自転車やから捕まらないということですね。そこらの対処の仕方ですと、個人的な対処の仕方やろうね。各個人の、そういうことです。

○田中委員

ありがとうございます。

何か先ほど笑いが出てきたようですけども、女性の方で何か危ない思いとかされたことってございますでしょうか。何かどんなことでもいいのでお話したださったほうがありがたいかなと思うんですけど、いかがですか。

では、自転車のほうも、確かにマナーの部分もとても大事なことだと思うんですけども、もし何か発言しにくかったらどんなことでもよろしいですので、せっかくの時間ですので、ご発言いただければと思いますが、いかがでしょうか。はい、どうぞ。

○杉浦委員

安全・安心部会の杉浦といいます。よろしくお願いします。

先ほど台風の話が出たと思うんですけども、21号と24号の分があったんですけど、前のときもお話しさせてもらったんですけども、たまたま私、今、町会長をしまして、14の町会がありまして、あらかじめ連長のほうから、その台風に備えてという部分でスマートフォン、これ一応連絡網をつくっています。それと無線機ですね。これも一斉に連長なら連長、防災リーダーは防災リーダーから全ての地域に行くんですけども、要は避難所の開設のことですね。21号のときは区役所のほうから11時ぐらいに出てたというようなお話だったんですけども、実際自分のほうにきたのは、12時過ぎていたんです。そのときは本当に台風がもろに来ている状態で、雨が降って、風が吹いて、外に出る

のは危ない状態で、私何軒かのところに、一応避難所開設を知らせるために行ったんですけども、逆にこんなときに行けるかという部分でお叱りを受けたところが幾つかあったんです。そのことも踏まえて、24号のときは前日に、確か吉村市長のほうから、翌日の午後に台風が来るようだと、翌日9時に各小学校のところを開設するようにということがあったと思うんですけども、そんなんで、その分に関しては、一応情報とすれば御存じの方と、御存じない方がいましたので、私は各班長さんのほうに、9時になったら小学校のところに避難所が開設できるんで、もしも避難しようと思っている方がおられたら、行けるからということで連絡をしたんですけども、開設の知らせに関しては、連絡網を設けるか、そういう班長さんに言うとか、班長さんも年を召した方もいますので、あとは地域で、私らもマイクを持っていますので、マイクのほうでもって、あらかじめ知らせるというか、ちょっと原始的な方法かも知れませんが、そういうような形で会長とか、副会長とか、町会の役員の方が、あらかじめその辺のことを決めておいて、知らせるといったことがいいんじゃないかなと思うんですけども、実際には、今まで台風で避難するということがですね、今回うちの地域では、21号のときは1名と、24号のときは23名あったんですけども、今年はかなり屋根なんかブルーテントが多かったんですけど、多分今年の方もそれに備えてできる可能性があると思いますので、マイクとか、班長に伝えるとかいうこともひっくるめて連絡網、もう一回やりたいなと思いましたけども、ほかにそういった部分で何かいい方法があれば教えていただけたらと思います。よろしくお願いします。

○田中委員

ありがとうございました。

何か地域で、今回災害が起こってうまく対応できたとか、あるいはこういう部分が難しかったというところがございましたら、ご発言いただければと思いますけども、いかがでしょうか。どなたか。松田委員何かありますか。どうぞ。

○松田委員

先ほど申し上げられたとおり、やはり避難所へ行くときの時間ですね。伝えるときにはもう遅かったということが、今一番言われていることだと思います。ということが9月に入ってきました。

○田中委員

ありがとうございました。

ほか何かございますでしょうか。今回すごい被害がたくさんあったと思うんですけども、話尽くされたでしょうか。そういう災害対応についてはいかがでしょうか。いろんな部会の方がお話し下さっても、別に部会、私はこどもの未来部会だからといって発言できないわけではないですので、自由にご意見を言っていただければいいかなと思

いますけども、いかがでしょうか。手を挙げていただければどなたでも、せっかくの機会ですので、お願いします。

○清水委員

こどもの未来部会の清水でございます。

先ほどの区役所の方からの説明で、3つのテーマのうちの3つ目の次世代のところで、学校跡地の活用についていいなというアイデア、「みんなの学校」にしていくというところでは、これからさまざまな人たちが生野区に外国から来ますし、また子育て中の方々とか、いろんな人たちが実は学びたいという気持ちがある、学びをきっかけに人が集うことができるんじゃないかなと思うんですね。学びを通していろんな人たちがコミュニケーションを取るし、また集まるとなると、例えば食事を介して集まる場所にもなるし、いろんな境遇にあるこどもたちが、そこへきっかけに集まってくることもできるかもしれないし、そこでどんな拠点にするのかとか、どうしたらいろんな人たちがそこに集まってこれるかということ、区民の人たちがどんどんアイデアを寄せて、また、そこでつながりができてくるし、とてもいい、これから期待できる取り組みだなと思って聞かせていただきました。

○田中委員

ありがとうございます。

いかがでしょうか。そのご意見について、「みんなの学校」というのは、一体どんなものになるのかというのは興味がある方もいらっしゃると思うんですけども、ご意見いただければと思いますが、いかがでしょうか。

先々週でしたっけ、「リノベーションまちづくりフォーラム」というのがございました。どうぞ。

○服部委員

すみません。西生野の服部です。

学校の跡地、どうかなと思うんですけども、外国の方を日本語の教える場所、多分、日本語が全然わからないで来られる方は多いと思うので、日本語を教えるような場所を提供していただいたらどうかなと思ったりもするんですけども、ただ、4月から来てもらうって言うんですけども、実際問題として、外国の方が日本へ来られて一番困るのは言葉遣いやと思うので、そういうのがやれる場所というのをつくってあげたらどうかなと、そう思うんです。

それから、今、保育所が、こどもらが大体みんな、待機児童がなくなると聞いているんですけども、こういう話を聞いているんです。保育園に行っているこどもは、年長さんが一人いて、下の子がいるんですけども、行っている保育園が、場所が違う、だから朝送っていくのに2カ所の場所へ連れていっている。今度3人目ができたわけです。3人目ができたら、今度入る場所がない、実際問題として聞いている

わけです。保育所で待機児童がなくなると聞いているんですけども、実際問題として、こういう話を聞いているわけですね。そしたら、それは一体どうなるのこの間聞いたら、家で育てていかないと仕方ないという話を聞いているわけです。だから待機児童がなくなるってうそやん、実際問題こういう話が出てきてるわけですね。これから4月になって外国の子どもも皆入ってくるわけですね。そしたら、そういう入れ物は一体どうなるの、日本語が話せないこどもや赤ちゃんが来て、日本語同士で友達同士は話している。外国から来た子が話せない、そしたらそのこどもらはどうするの、そんな話が全然、役所のほうからも聞こえてないです。なります、なります、じゃだめですよ。こういうふうにならたら、こどもはこういう教え方をして日本語を学んでいただきますよという問題が出てこない、ただ来ます、来ますではどうにもならないと思うんです。そんなところがどうなっているのかちょっと聞きたいです。

○田中委員

それは、どなたに聞けばよいでしょうか。

○服部委員

役所の方にでも、どなたでも、そういうどうしたらいいかという話をね。

○田中委員

ほかにいかがでしょうか。ほかに何か。外国の方が、外国の方の子どもさんが。

○服部委員

来たときに。

○田中委員

いらっしゃったときに。

○服部委員

そこは永住なのかわからないけども、転勤何かで来られて、窓口を広げたと、生野区窓口広げましたと、その小さいこどもらはどうするの。保育所は行かないような、学校へ行く子は、学校へそのまま来て何とかいけるかもわからないけども、保育所へ入ってきて何とかかんとか、言葉がわかるこどもらに、今度外国の言葉しかわからないのに日本で育って、今度そのこどもらが日本語しゃべれなかったら、仲間はずれになるわけやね。

○田中委員

そうですね。

○服部委員

そういうやつはどう考えているのかなと。

○田中委員

保育士さんがしゃべれなかったりとか、そういうことでしょうか。

○服部委員

そう。そういうことになる。だから、そのこどもも日本語しゃべれないし、保育士さんも私は英語はしゃべるけど、ベトナム語はしゃべれない、そんな場合はどうなる。こどもらがみんな宙ぶらりんになるわけ。

○田中委員

対応ができないのですね。

○服部委員

一番大事なこどもらが宙ぶらりんになってしまっていて、どうすることもできない。だから、そういうようなことは考えてもらっているのかということですよ。

○田中委員

じゃあ、保育士さんがそういうしゃべれるようになる人を、採用。

○服部委員

だから、保育所もしゃべれないとあかんし、こどもに教えてあげないとあかんわけですよ。

○田中委員

そうですね。

○服部委員

日本語というものを。だから、その教える人の問題、その場所で、今現在こどもが入れないという場所、同じ日本人のこどもでお兄ちゃんがいて、弟がいて、でこどもが一人できたと、今度保育所へ頼みに行ったら保育所に入れない。3年間保育所に入れなくて、また見ないといけないという話も聞いているわけです。

○田中委員

皆さん身近で、そういうことはありますでしょうか。そういうことが実際に起こっているとか、困っている人を見かけたとか。

○山本委員

今のご意見ですけども、部会でもその話が出ました。まず、私が思うのは、確かに3人こどもがいて、3人全部入れたら、それは幸せなことです。でも現実的には、2人おっても1人しか入れないところ何人もいてるわけです。だから、それは多分、保育所のほうでも何かルールを決めて、順番に許可していつていることだと思うので、待機児童がゼロになるといっても一気に明日からなるわけではないんです。やはりいろんなものを積み重ねていって初めてなるわけですから、それはそれでしっかりやらしてもらわなあかんと思うんです。

言葉の問題ですが、私は逆に言葉は、そんな保育所出て日本語がわからないこどもが、そこへ入れば、覚えるのはすぐに覚えると思うんです、小さいこどもは。逆に日本のこどもがベトナム語を覚えるかもわからないですし。そういう意味では一気には何でも、なかなかいか

んと思いますけども、それとは別に今おっしゃったように、やはり外国語を教える、そういった施設というんですか、全国のあちこちでいろいろやられているみたいですが、そういうのは進めていってほしいと思います。

○田中委員

ありがとうございます。はい、お願いします。

○山口生野区長

私が区長の立場としてというよりは、私のいた小学校が、日本語をしゃべれない子が何人も転入してくる学校の校長をやっていたので、まず小さいこどもは保育園に行く子、いかない子いろいろいるんですけれども、割と保護者同士で情報交換しながら、ベトナムの保護者の方が割と多い保育園なんかでは対応していたりしますし、やさしい日本語を取り入れて保護者に情報が伝わるようにしていることもあります。やはり小さいこどもは覚えるのがとても早いのは早いです。私の学校では2年生で入ってきた子がいたんですけども、学校で友達同士で悪い言葉とかを先に覚えたりする傾向があって、お家では母国語をしゃべっているのに、正しい言葉がわからなくなるので、そこには大阪市の教育委員会が、ちゃんと日本語指導の先生を送ってくれたり、センター校というところでまとめて教えるということがあります。実は、こどもの言語の問題で一番問題なのは、例えば5年生、6年生ぐらいで、転入してくる子のほうがよほど問題です。一応、日本語も身につくんですけども、母国語のほうも中途半端に終わってしまう、小学校5、6年生が使う言語で終わってしまうので、将来どっちもしゃべれる、いわゆるバイリンガルになれると思ったら、意外と母国に帰って仕事しようとなったら、あなたのしゃべっている言葉は幼児語みたいだねとか、こどものしゃべる言葉だねということで、実際、仕事で使えないというような、「ダブルリミテッド」というんですけども、バイリンガルになれなくて、どっちの言語もしっかり育たないというのが大きな課題としてあります。また、親がなかなか日本語を勉強する機会もなかったり、なかなか大人やからできないというところで、思春期のころにこどもと親が意思疎通できないというような問題もありまして、大阪市の日本語指導のワーキンググループがありまして、私も入っています。それは区長として、今後生野区に、そういったこどもたちが増えてくることを、教育委員会であったりいろんなところと一緒に考えなければならないと思ってやっていますので、行政として、これからどう備えるかという議論は一生懸命しているところなので、ご心配は受けとめたいと思います。

あと待機児童に関しましては、いろんなケースがありまして、地域で聞こえる声と、公表している数と違うじゃないかみたいな思いもあるかもしれません。やはり個別で相談していただいたり、個別で問い

合わせただけなら一番ありがたいなと思っていますので、よろしく
お願いいたします。

○田中委員

ありがとうございます。ほかに何か、まだまだいろんな話がある
と思うので、お願いします。

○川端（麗）委員

くらしの安全・安心部会の川端と申します。

一点、この多文化共生を考えていく上で、必要な視点と申しますか、
今、こういう議論がある中で、ここに外国籍の方であったりとか、そ
ういう子どもさんがいらっしゃる方がいたりとかして、そういう声が、
こういう場で聞けて議論ができたらいいなと思うんですけども、な
ので、この委員の皆様方の中に、例えば、そのベトナムの方がいらっ
しゃったりとか、そういうルーツがある方がいらっしゃるということ
は、非常に大事なことではないかなと思っています。多文化都市とし
て、全国的に生野区は注目されていると思います。入管法の改正で、
多文化共生ということは、盛んに言われている中で、いろんな全国の
自治体の取り組みが紹介されていますけれども、なかなかそこで生野
区の取り組みとか、そういうものが全国レベルの中ではあんまり聞か
ないというか、そういうことを、私は生野区に住んでいるわけではな
いのですが、少し残念に思ったりしているところがあります。なので、
実際に外国の方がどんどん来られて増えてきてというところで、何か
を考えていくのではなくて、先んじてというのは非常に大事なかと考
えています。

すみません、以上です。

○田中委員

ありがとうございます。

積極的にどんどん施策を展開していくというのも一つなんでしょう
けれども、何か、コミュニティのほうで、工夫をしているとか、例え
ば、以前お話が部会で出たんですけども、日本語学校の人たちと一
緒にイベントをするというようなこともあって、顔と顔が見える関係
づくりができたというようなお話もあったんですけども、何かそのコ
ミュニティの中で、そういう外国籍の方とか、あるいは外国の方がい
らっしゃって一緒に手を組んで何かをしたとか、なし遂げたというよ
うなご事例があったらお聞かせいただきたいなと思いますが、いかが
でしょうか、お願いします。

○川上委員

参考になりますかどうかわかりませんが、まちの未来部会の川上でご
ざいます。

先ほど服部委員からおっしゃった子どもさんの言葉の問題というの
がありまして、私のところ、北巽の中に「生野区子ども・子育てプラ

ザ」というのがございまして、実は私の息子の同級生が、奥さんがフィリピン人なんです。もう2年ほどこっちに住んでおられるんですけども、全く奥さんのほうは言葉がわからなかった、ところが子育て、こどもができて、今1歳なんですけども、そのこどもとともに子育てプラザに来られまして、時々僕も見るとはんですけども、奥さんのほうは一年半ぐらいになりますので、日本語やっこのごろ話せるようになったと、そして、今度は、この間異文化交流を私のところでやりましたときに、ちょうどこどもを連れて来られまして、こども、まだ1歳ですから、言葉のほうはそこまでいってないですけど、それに交えて一緒に参加していただいたりして、奥さんがやっど日本語話せるようになった。それでこどもも一緒に、今、来てますので、このまま1年ぐらいたてば、またこどもも話せるようになるん違うかなと思って見ているんですけどね。こういうのも一つの、そこへ交われば覚えるということとございまして、子育てプラザ何かも、またご紹介していただいて、参加していただければどうかなと思います。

○田中委員

ありがとうございます。

とても大事なことだと思うんですけども、例えば皆さんも御存じだと思いますけども、「松野農園」さんってございますよね。そこでは、例えば留学生の方と一緒に、その松野農園の、農園で取れた野菜とかを一緒に収穫して、そこで食事、料理をするといったような試みもあって、一緒にそういう何かをつくったり、何か一緒に、ともに食べる。そういった機会をたくさん増やすということはとても大事なことかなというようにことときと同じことではないでしょうか。いかがでしょうか。そういうことですよね。

ほかに何かそういう事例で、もしございましたらお聞かせいただきたいなと思いますが、いかがでしょうか。どうぞ。

○亀田委員

中川地域の亀田です。まちの未来部会です。

ちょうど僕、今0歳児のこどもがいるんですけども、嫁さんが、いろんな生野区の地域の幼稚園で、幼稚園に通っていない未就学児童というか、0歳児からのこどもを母親と一緒に連れて行って、いろんなイベントをやっている日がある、一覧のチラシがあるみたいで、それを見て、今日はここ行ってみよう、今日はあっち行ってみようとか、ここでいうたら、「東桃谷幼児の園」ですか、とかでもイベントがあつてとか、例えば、このチラシが入ってますけど、「いくのっ子広場」とか、あれば行くみたいな形で、結構僕は何をやっているのかは全然、何かあるんやぐらしか認識ないですけども、いろんな幼稚園でもやっていたりするの、いろいろイベントあるので、調べれば結構、いろんなところでいろんなことやっているなというのは実感してます、こど

もができて初めて。あと子育てプラザとかでも月刊カレンダーみたいな、この日は0歳児とか、1歳児対象のこんなイベントしてますとか、マタニティ教室やっていますとかいうのもあるんですけど、やっぱり近いと行きやすいというようなことも言うてたので、最初のほうの話ですけど、跡地利用のときに、そういう教室を小学校とか、跡地になる学校って地域に近いので、そういう教室もそこでやっていただけたらいいのかなという思いはあります。

以上です。

○田中委員

近いところでやっているということが一番、子育ての中では大事なことだというお話があったかと思います。ありがとうございます。ほかに何か、せっかくの機会ですので、1時間もいただいたということで、何でもこの際問いかけていただければ、お話しくださったら、それをこの場はその思いとか、考えとか、意味とか、そういったものを区政に伝えていく大事な場所でもあると思いますので、いかがでしょうか。お願いします。

○猪股委員

舍利寺校下の猪股です。よろしく申し上げます。部会はくらしの安全・安心部会に所属しています。

あらためて西部地域の学校再編の問題、これをお聞きしたいと思います。以前に質問したことと重複するかもわかりませんが、一つご了承いただきたいと思います。8校を廃校して、4校を存続すると、こういう案が持たれておりまして、今は小中一貫を含めて田島小学校も入れますと実に12の学校のうち9つがなくなると、そして、今、私たちがともに語り合っている鶴橋校下、御幸森校下、勝山校下、舍利寺校下、林寺校下、そして田島校下、これは9つなくなるうち実に6つの皆さんが話し合いを求めていると、全体の67%なんです。それをお願いをしてきました。一旦立ち止まって私たちの話も聞いてもらいたい。一昨年11月24日に11名の皆さんの陳情書が採択されました。されど11名であります。12月議会であつという間に採択されたんです。私たちは話を聞いてもらうために昨年3月5日と、9月18日に延べ1万1,000筆の皆さんの署名をお出ししましたが、未だに採択どころか野ざらしされていると、そのような扱いを受けています。今、私が考えるのは11月24日に採択された教育委員会、また行政の皆さんのお考えに沿って学校9つをなくそうという、そういう皆さんと、それから自分の目の黒いうちは学校を潰さないというような傲慢な考えの方もいらっしゃるかもわかりません。しかし、僕は真ん中に立って、一度そういうような皆さん方と話し合って、そして最大公約数を求めたらいいとお願いしてきました。しかし11月24日の採択された皆さんが主となって、今の学校設置協議会、準備会が進められていると、私は

こう思っています。最近大池中学校区の協議会は、準備会もなしでいきなり協議会というような、平成34年4月1日新校に向けて非常に走り出していると、もう一度立ち止まって話すると、こういうお願いは、僕は間違っていると思わないんですが、課長どう思われますか。これが一つ。

2つ目に、この学校が9つもなくなるというのは皆さん考えていただきたいんです。もちろん大義はこどもさんが激減した、これは言われなくてもわかるんですが、西部地域12のうち、9つの学校がなくなるんです。9つの学校の近くにお子たちはいないんです。まちは、僕は廃墟じゃないかなと、生野区を活性化して大阪市24区のうち、23番目の固定資産税だと、こういうようなご説明も過去にありましたが、この9つを、えいや、でなくしてしまうことが活性化につながるのでしょうか。話し合いぐらいはもってもらってもいいのではないのでしょうか。でも、前回話し合いをもちますよと、こういうふうに言いながら、そちらの考えはどんどん進めていって話し合いは勝手にやれと、あるいは聞きますよと。しかし4つ、8つはだめですよ、3つ、9つはだめですよ、と。こういうようなことであれば門戸が狭かったらどうして話し合いになっていくんですか。ここは一度立ち止まって、私たちの意見も聞いてもらいたいと思います。過半数の皆さんが9つの学校を潰すんだと、西部地域の過半数の方が9つの学校をなくしてしまうんだと、こういうふうに思っているように私は到底思えません。そのためにもいろいろな、多様な意見の方を、区役所の職権をもって集めていただいて、そして、そこでお話を聞いていただくということぐらいは、私はしていただいても、サギもカラスも笑わないと、このように思います。今はどんどん34年の4月に向けて突っ走っておられるように見えるんですけども、私たちのそういうような少数意見じゃないんです。1万1,000筆の人たちは少数意見とは言わないんです。11名の方を少数意見というんです。その11名の皆さんが出した陳情書をもとに12月議会であつという間に一昨年採択されました。そして12月21日の準備会につながったと、僕はこう思っているんです。1万1,000人の皆さんの意見は無視されて、11名の皆さんを取り上げると、僕はこれは民主主義のルールに反していると思うし、ただ、こどもさんが激減しているということは、これはわかります。いい学校を再編するためにも、そういう人たちも含めて、ぜひ話し合いの場をつくっていただくと、切にお願いしておきます。

一方的にしゃべって、私が時間をとるわけにもいきませんので、ぜひ、そのことは含んでいただきたいと思います。

以上です。

○田中委員

ありがとうございます。これはお願いですよね。

○猪股委員

お願いですね。

○田中委員

思いとかお願いをお話しくださったということですので、区のほうも多分承知しているというか、存じていらっしゃると思いますが、今後はそういった対話の場というのは設けるという可能性はあるのかちょっと伺いだけしておきます。よろしいですか。ちょっと聞いておきます。お願いします。

○井平生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

失礼します。区役所の地域活性化担当の井平です、いつもお世話になります。ご意見ありがとうございます。

この学校再編の話なんですけども、生野区では平成25年から話を進めさせていただいております。この間いろんなご意見もいただきながら進めているところですが、まず先ほど説明でもさせていただきましたけども、この春ですね、4月に鶴橋中学校と勝山中学校の再編が決定しまして、桃谷中学校ということで新たに開校することになりました。地域の皆様、保護者の皆様方にご協力いただいて、進んできたところでございます。ただ、小学校につきましては、現在まだ1校も再編というのは決まっていない状況でございます。今、ご指摘いただきました生野中学校区につきましては、34年4月に向けてということで賛成の意見がある中で、学校設置協議会を設置して進めております。ただ、当然その他の地域の方も含めてご理解をいただけないといけませんので、いろんなところでお話をさせていただきながらということで考えております。ほかの地域も、またこれからになるんですけども、直接、特に関係します小学校の低学年の保護者の方、また未就学の保護者の方に対してしっかりとお伝えできるような場も設けながら、また地域のほうともしっかりと話を進めていきたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。

○田中委員

ありがとうございます。

○猪股委員

もう一点だけ、すみません。連続で僕がしゃべって申し訳ありません。

課長、実は賛成の皆さんとともに意見を、お話進めていると言うけど、賛成の皆さんって賛成の人ばかり集めているんじゃないですか、当然賛成じゃないですか。だから、私がお願いしているのは、67%の校下の全員とはいいませんが、過半数以上の人がお話し合いをしてほしいと、それには、やはり、今途中で進めているようなお話を一旦置いて、フラットにしてお話を聞いてもらうのが僕は常識だと思います。

いい再編をするためには、多様な意見をやっぱり聞いてもらいたいと、これは重ねてお願いしておきます。賛成の人だけ集めて皆さんの賛成のもとにやっております、当然賛成の人ばかり集まっているからね。

だから、それともう一つだけお願いしたいのは、一昨年12月の21日に私が火曜日だと思いますが準備会があったと、その中で今日お昼も申し上げたんですけども、この11月24日の陳情書に沿って進めていきますけども、そういうことに進めないような人たちはちゃぶ台をひっくり返すと、このような発言があったように舍利寺校下の推薦人2人の方から聞きました。とんでもない意見です。私は本来であればそういう人は退出していただく、あるいは厳しくご注意くださいと、これは私が求めている意見で皆さんも多分一緒だと思います。このまま進めへんかったらちゃぶ台ひっくり返すと、こういうような荒っぽい発言をされたのあれば、当然中心となっておられる議長さんか、あるいは進行の方は、やはりそういう発言はだめですよと、ご注意くださいと言、私は言うべきだと思う。でもうちで出した2名を推薦人から聞くと、そういうような喚起はなかったと、こういうふうに聞きました。私が言いたいのは公平な運営をお願いしたいと、このように思います。

○田中委員

ありがとうございます。ほかに何か、お願いいたします。

○室谷委員

室谷といいます。くらしの安全・安心部会です。

「西部地域学校再編整備計画案」について、区民に公表されたのは2016年、3年前の「広報いくの」の3月号だったと思います。区政会議にその後提案されました。今の状況というのが、当初の中身と異なる形、違った進め方でやられているということが非常に問題で、これは生野区の行政のあり方、資質に関わることではないかなと思っております。具体的に例えば生野中学校区でいいますと、もともと4校再編案でした。ところが、今は2校で、強行で学校設置協議会まで進め、議会の「教育子ども委員会」では、2校では再編計画を進めないという、区からの答弁があったにもかかわらず、この2校の設置協議会で開校時期まで決めてしまう。あるいは、大池中学校区は3校の再編案なのに、今、2校で準備会を飛び越えて設置協議会で開校時期を決めようとしているだとか、田島中学校区はもともと田島小学校の敷地を活用するとしていたのが、今は、あの狭い田島中学校に建てようということに変わっています。そういう点で、今廃校が、8校と言っていたのが、9校にまでなってしまう。こういう計画、そのものが非常に変わってきています。今のこういった統廃合ありきの形で、どんどん違った形で進めるのではなくて、やっぱり本来なら一旦立ち止まって生野区のまちづくりを考えるべきだと思っています。跡地の問題

出ましたけども、こんな災害が続いて、僕も見守りしてて、本当にパニックになりましたが、公の避難所が9つなくなっていいのかどうか、今はやはり、行政はまちづくりをしっかりと考えるべきではないかなと思っております。

以上です。

○田中委員

ありがとうございます。ご意見ということで伺わせていただいております。ほかに何か。お願いします。

○栗信委員

鶴橋の栗信です。桃谷中学校がいよいよ4月から開校ということですが、今、私たちが一番心配しているのは、もともと勝山中学校のところへ、鶴橋中学校のこどもたちが行くんですが、心の悩み相談を、今までのように保健室、保健の先生に打ち明けられたらいいけれども、結局、心の悩みをどこへどうぶつけて、悩みを相談していかかわからないときに鶴橋中学校の場合は「元気アップ」の人たちが、できるだけ図書室にみんなを迎え入れようというところで何年間もかかって努力なさって、元気アップのおばちゃんという感じで悩みを相談してくる子がいるということを聞いていますが、今度開校されるところでどのように元気アップの人たちがついていくのか、そのまま打ち切りになるのか、保健室にどのぐらいの人数の先生たちが、悩みを聞いてくれるのかというふうになっているのでしょうか。

○田中委員

その「元気アップ」の配置のことについてお伺いしたいなと思います。お願いします。

○井平生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

失礼いたします、ご意見ありがとうございます。

「元気アップ」の中身につきましては、今後、学校のほうとしっかり調整をしていかないといけないと思うんですけども、現時点でどういった形になるかというのは決まってははいませんが、こどもたちの悩みということでありますと、今、中学校はスクールカウンセラー、週に一日の配置が鶴橋中学校も勝山中中学校もあるんですけども、来年度につきましては、再編ということもありますので、週5日スクールカウンセラーに来ていただけるような形で、今は予算のほうを要求しております。今勝山に来ておられるスクールカウンセラー、鶴橋に来ておられるスクールカウンセラーが最低一日は来ていただけるような形で、お願いをしていっていますので、そういった中で、顔の知ってはる先生がおられてこどもたちも相談しやすい状況というのは考えていきたいと思っております。元気アップのほうは、そういったこともあるということをお伺いしましたので、また学校ともお話しさせ

ていただいて、どういった形でできるかというのは検討していきたい
と思います。ありがとうございます。

○田中委員

ありがとうございます。すごい貴重なご意見いただきました。願
いします。

○山本委員

事前質問についてお尋ねしたいんですけど、まず一点目ですけども、
参考資料3の8番目の意見です。区役所など公共施設の案内や表示や
情報発信が外国人に対しても配慮されており、わかりやすいと回答し
た区民の割合が30%以上と、この資料にも入っております。私の質問
としては、区民の割合よりも、実際に配慮されているかどうか、実際
に住んでいる外国人の意見を聞くべきではないでしょうか、という意
見を出したんですけども、回答を見てみますと、もう一回区民の方に
意見を聞きますとなっているんですね。私は、これ回答になっていな
いと思うんですけど、その辺はどういうことなんでしょうか。まず一
点目がそれを教えていただきたいのと。

それから、2点目は、今の鶴橋の委員の方も発言がありましたよう
に、一応、勝山と鶴橋は桃谷中学校として4月から発足するんですけ
ど、最後の学校設置協議会のときに、私は、今の意見にも近いんじゃ
ないかなと思うんですけども、これは一応、統合という形になってい
るんですけれども、できたら校長先生と教頭先生はクロスで、任命し
て行ってほしいという、一応意見を出しました。要するにもし勝山中
学校の校長先生が桃谷中学校の校長に残るとなったら、鶴橋の教頭先
生が新しい教頭先生、鶴橋の校長先生が新しい校長先生になったら、
勝山の教頭先生が教頭になると、そういうような配慮をお願いしたい
と、これは人事のことですから、我々が意見言って通るかどうかわか
りませんが、この統合というのは、特別な事情なんですよ。こども
たちには何の関係もないわけです。行政のほうで、もちろんそのほう
がいいということでやってきたわけなんですけども、私たちの協議会も、
私は東桃谷地域から選ばれて委員として行きましたし、それぞれの地
位から委員として来ました。それから各中学校ごとにPTAがあって、
PTAの委員が、それぞれ推薦されて来ました。ですので、先ほどち
よっとお話聞いててびっくりしたんですけど、賛成の人ばかり集めて
いるというから、そんなことってできるのかなと思ったんですけど、
私の地域では、特にそういうことありませんでした。選ばれた人が意
見言い合って、もちろん、最初鶴橋もだいぶ反対意見もありましたけ
ど、それは話し合いの中で解決して、ただ、私がこの間最後に質問し
たときに、ここに書いてますように鶴橋の委員が、「勝山中学校に吸
収されると思うてしまう気持ちがあります」という意見を出されたん
です。自分の気持ちを言われたんです。私もやっぱりそういう方がお

られるんやというように思いました。もちろん今年の1、2年生の生徒数が、鶴橋中学校が約59名、勝山中学校が128名、約2対1ですね。言葉では統合ですけど、一方では吸収されるという気持ちになるのかもしれない。逆に、じゃあ反対の側から見たら、君たちを、私たちが吸収したんやというような考えを持つ人もおるかもわかりません。そんなときに、その生徒さんが悩んだら、今言われているようなことは絶対に必要だと思うんです。そういった意味も含めて、今言われたことも大事ですけど、私はその生徒と今まで1年、2年接してきた教頭先生、あるいは校長先生が、その学校に配属されるように、できたら私はこの区政会議の意見として、私個人の意見でなくして、もし反対者が多数だったら、それは仕方ないですけど、区政会議の意見として大阪市へ要望してほしいです。区政会議の意見としてね。その辺は議長さんにお任せしますが、それと、一気にやっつけてしまいますね。

この事前にいただいた意見、事前質問というていですが、この質問の内容ですけど、私が書いてFAX流したやつから削除されている部分があるんですね。それももちろん削除するような内容を私が書いたんだとしても、事前に私ところへ連絡して、この部分は削除しますとか、そういう連絡があってしかるべきだと思うんです。その内容と違って別にそんな難しいこと書いてません。私は校長先生ってどんな仕事をしているのだろうか、教頭先生ってどんな仕事をしているのだろうか、それをインターネットで調べてすぐくわかりやすい文があったので、それをそこへ入れたわけですけど、その部分が抜けています。ついですが、そこでは校長先生というのは家庭で言うたらお父さんの役割だと、教頭先生というたらお母さんの役割だと、そのことについて事前質問に書いたんですけど、それが削除されている。もしさっきも言いましたが、削除するんならするで別に、こういうことは書いたらあかんからということで、前もって削除してもいいですかと聞けば、私も別に書いてはあかんことまでは書くつもりはありません。それも7日のぎりぎりの7時か8時ごろにFAX流してます。ただ単に私もどういふうに書いたらいいのかなとか、そういうことも考えて、わざわざインターネットまで調べて書いたわけですよ。ですからその辺の回答もお願いします。その3件です。すみませんけども。

○田中委員

ありがとうございます。これについてはご意見の伺い方ですか、区役所の方の削除。

○山本委員

最初の分ですか。

○田中委員

そうですね。

○山本委員

私は、最初の分は区民に聞くよりか、そういうふうにいるとやっていたら外国人の方に聞いて、その人がここに書かれているように配慮されていると感じる人の数字を出さないと、例えば、私がちゃんと配慮してますかと思っても、一方ではひょっとしたら配慮されていないかも知れないんです。外国人の方だったら配慮されていないかも知れないし。私はこんな全然配慮してないで言うても、外国人の方からだったら、いや、ちゃんと配慮してもらっていますよということがあるかも知れない。ですから区民の方に聞くよりかは、何でその配慮してもらっている外国人の方に聞いて、その数字を上げたほうが、私はいんじゃないかなと思うんですけど、まずその点で、そこから先をお願いします。

○田中委員

はい。どなたに聞いたらいいんでしょうか。お願いします。

○清水区政推進担当課長

区政推進担当課長の清水でございます。ご意見ありがとうございます。

山本委員から頂戴しました区民アンケートについての質問なんですけれども、まず区民アンケートという性質上、無作為抽出させていただいた区民の皆さんへ、たくさんの質問にご回答いただいて統計を取らせていただいておりますので、今回いただいたご提案の中では、ご意見いただいたとおりだと思いますので、区役所による情報発信が外国人に対しても配慮されていると、そう感じられた区民の方がどれだけいらっしゃるかということ、まずアンケートの中では修正して質問していきたいと思えます。

それと本質のところ、外国人の当事者の方のご意見が一番大事であると言っていた、それは本当にそのとおりだと思います。実は、去年の7月に区役所ロビーにおきまして、多文化カフェというのを開催いたしました。そこには、いろんな国の当事者の方と、それを支援されております支援者の皆さん、いろんな立場の方が30名ほどお集まりいただきまして、生野区の多文化共生の未来を一緒に考えるという機会をもつていただきました。そこにお集まりいただいた皆さんを中心としまして、この間何度も話し合いをしていただいて、また私どもも一緒にお話しさせていただきました、ちょうど2月17日の日曜日、今週の日曜日なんですけども、山本委員がご心配いただいているとおりで、当事者の皆さんが何に今お困りで、これからどうしたいと考えておられるのか、また、それを受け入れる地域としても、コミュニケーションが不足しているから伝わっていないこと、またお伝えすれば気持ちよく地域の一員として暮らしていける可能性があるかもしれない、そういったことを当事者の方と支援者の方、また地域の方が自由に入出りできる場所、これからの外国人の方との交流も含めまし

て、自由に入出りができる居場所のようなものを立ち上げる場を設けていただけることになりました。場所は御幸森小学校で、2月17日、日曜日の午後2時から4時30分まで、立ち上げのイベントフォーラムを開催していただけることになっています。市民による多文化共生のまちづくりを目指すという趣旨で開催していただけます。今後、こういったことで外国人の方、当事者の方や支援者の方、本当にお困りなこと、また先ほどの表示のこともございますけれども、生活習慣の違いからくるお困りごとは外国人の方だけではなくて、それを受け入れてくださっている地域の方も同じように問題、課題だと、何とか前に進めていかなければいけないと感じていただいているところでありますので、その皆さんが同じテーブルで話をしていける場を、今後つくっていただける。そこに一緒に私たちも参加させていただきたいと思っておりますので、ぜひお時間よろしければ、そういった場所にもご参加いただければと思います。また、そこでいただいたご意見を参考にさせていただいて、そういったお困りごとなどを解消していけるように改善の提案もさせていただきながら、また区内の行政機関とも連携しながら前に進めていけたらと思っております。また、どういったご意見があったかということもご紹介させていただける場も設けていけたらと思っております。どうぞ今後ともご協力いただけますようお願いいたします。ありがとうございます。

○山本委員

よくわかりました、頑張ってください。あと2点。

○田中委員

ありがとうございます。まだ、ご発言いただいてない方にいろいろお話を。

○山口生野区長

まだ2つ答えてないんで、すみません、先それやらせてもらいます。

○山本委員

まだ回答もらっていないんです。

○田中委員

ではあと2つお願いします。

○山本委員

事前質問の削除について、まず教えてください。

9番の事前質問ですけども、私はもっと長い文書を送ったんですが、削除されてます。最初は文書が長いのかなと思ったら11番の委員の方が1ページ使ってやっているから、そうでもないみたいで。だからその理由を教えてください。

○井平生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

先に内容の話をさせていただいてよろしいでしょうか。学校設置協

議会のほう委員としてご意見いただきましてありがとうございます。先日の協議会でもご意見いただいたところでございます。ご対応のほうにも書かせていただいているんですけども、ご理解いただいていると思うんですけども、人事の話ですので、なかなかそのとおりということは、なるかどうかというのはお答えできないんですけども、我々としましてはご意見をいただいておりますので、教育委員会に対してそういうお話はさせていただきたいと思っております。当然、今回再編で新しい学校ができるということは大きな要素だと思っておりますので、伝えていきたいと思っております。ただ、校長先生の人事なので、そこだけが全てで人事をされるわけではないと思っておりますので、そこはご理解いただいて、しっかりと伝えてはいきたいと思っておりますので、よろしく願いいたします。

○山本委員

ぜひ私個人の意見ではなくて、区政会議、ここでの皆さんの意見やしてもらったほうがもっと、校長の人事やから、こちらでどうにでもなるという意味で言っているのではなくて、でも、特別な事情があるわけですよ。こどもさんたちは別に統合されなくてもよかったわけですよ。さっきも意見出ましたように、そういう方がおられたときに身近に、今まで親しかった校長先生や教頭先生がおられたら相談もしやすいやろうし、そういう意味、新しい校長先生や教頭先生が何もよくないというのではないんです。だから、そういう意味を込めてちゃんと人事のほうには伝えていただきたいと思っております。

あとは削除の件ですけども。

○田中委員

これは、ご意見を削除したということですね。

校長さんの役割とか。

○山本委員

私がFAX送った文書の一部が削除されてましたので、もし私が何か書いてはいけないことを書いたから削除したのなら、それはそれでいいんですけど。

○田中委員

理由が知りたいということですか。

○山本委員

いや、理由もそうですけど。事前に教えてほしいということですよ。

○深見副区長

すみません。副区長の深見でございます。

山本委員がおっしゃるように、ご質問を削るのであれば事前に削らせていただくというご連絡を差し上げるべきやったと思っております。申し訳ございませんでした。

○山本委員

今回は、私の書いた内容があかんかったから削除したんですか。

○井平生野区役所地域活性化担当課長兼教育委員会事務局総務部生野区教育担当課長

内容につきましては、インターネットで調べていただいた内容ということもあまして、それが実際に校長先生、教頭先生の例えとして正しい内容かどうかというところもありますので、書類としては削除させていただきます、口頭でお話しさせていただければということとさせていただきます。事前にそういった内容をお伝えさせていただいて、お話できる時間があればしっかりさせていただく必要があったと感じていますので、今後そういった形で取り扱っていきたく思います。よろしくをお願いします。

○山本委員

それは、それでわかりました。しかし意見として言っているのですから、それにインターネットで調べたと書いてあるし、何もややこしい内容じゃないんです。先ほど言いましたように、校長先生は学校で言ったらお父さんの役割ですよ、教頭先生はお母さんの役割ですよ、そのちょっとしたことを書いただけなんですけども、わかりました。今の返答で結構です。今後もしそんなことがあったら、前は中村課長のときは事前に来て、打ち合わせもやっていただいたような記憶もあるんですけど、よろしくをお願いします。

○田中委員

ありがとうございました。先ほど森口委員のほうから。

○森口委員

くらしの安全・安心部会の森口です。北鶴橋です。よろしくをお願いします。

皆さんにお聞きしたいんですけど、皆さんのところはごみの問題はどんな感じでしょうか。私ども、私は鶴橋で、駅の本当に横におるんですけども、昨年、民泊の改正がなされてから、やはり民泊の方が非常に増えています。それに伴って私どもの付近は軽自動車の回収車が入らない、細い路地の地域が非常に多くて、そこへ、例えば駅に向かって通勤、通学される方がごみを捨てていきます。防犯カメラも今おられる田中連合振興町会長の、いろんな支援いただいて、区役所の支援もいただいて、防犯カメラといいましょうか、そういうことも含めてのカメラもつけているんですけども、非常にごみのマナーが、ここ最近悪くなっています。昔は細い路地にも軽トラックを停めて各家庭の前にごみを出して、全部それを回収してってくれたんですけども、ここ最近のいろんな改革で、そういったサービスもしていただけなくなって、またやはり元通り、通りのところへ出すようになりましたら、スーツケースから、完全に曜日に関係のない、収集に関係のないごみが非常にほられます。当然収集車は持って帰りません。ラベル貼って

放置するんです。そうするとまたそこへほりに来ます。広い道のところに捨ててないですから、前の家の方、両サイドの家の方が非常に迷惑されて、私町会長してますので、どういうことやということを言いに来られるんですけども、私のとこ、別に苦情係でも何でもありません。もう民泊については国が勝手に決めて勝手にやってきたことなのに、何でこんなボランティアで、そういう肩書きがついているところへ皆、そういう厄介ごとを持ってくるのかと、非常に憤慨します。ですから、皆様もいろんな場所にお住まいだと思っんですけども、ごみのことはどうでしょうか。それが一点です。またもし意見あったら、終わってからもう一回ちょっと意見言わせていただきたいと思っしますので、お願いします。

○田中委員

ありがとうございました。どうぞ。

○辻浦委員

お答えします。うちの場合は、路地がありまして、路地に8軒ぐらいあるんです。うちの前へ、一時話をしまして、ちょっと置かせてくれということを話しまして、そこへ置かせてもらっているんです。網かけて、うちの女房いつも、僕もそうですけど、変なごみほってないかどうか確認して、変なごみあったら置いていきます。でも、一応不法ごみは環境局のほうに言ってちょっと取りに来てもらったりしているんですけど、一応うちのほうはその路地のごみについては、その路地から離れたちようどうちの家の前に置かせてもらうように話してやっています。ほかのところでも、ごみがうまく捨ててないようなところがありましたら、環境局から用紙もらってきて、ごみの、要は整理の仕方ですね、月曜日から金曜日までのごみの捨て方、そういうのをやってないところは持って行って、こんなふうにやってくださいというようなこともやっています。

以上です。

○田中委員

ありがとうございました。コミュニティが、そういう積極的に、そういうごみの問題についてもちゃんとやってらっしゃるというご事例だったかと思っます。

○森口委員

もう一つ、まず役所のほうにも聞きたいんですけども、今、生野区はフェイスブックとかで「生野区〇〇」という、勝手連的な、そういういろんなグループを立ち上げて、いろいろ活動しているやつありますね。それは例えばほとんどが公式的にどこかが認めたやつなのか、自由に運用して、当然「いくみん」も貼って運用していいのか、いわゆる勝手連的なものなのか、私もフェイスブックをしますけども、いろんなことで情報がどんどん上がってくるんですけども、これは一

体何やろうとか、何の集まりなのかなとかいうのが結構たくさん出てきます。例えば「生野区社会福祉協議会」と名のつくイベントごとが、フェイスブックに上がってくる場合は社協の行事なのかなとわかるんですけども、「生野区まちづくり何とか」とか、「生野区を盛り上げていこう」とか、いろんなグループがあると思うんですけども、それはどの辺りまで、例えば行政がある程度の、これは管理しているのか、全くこれはノータッチで勝手連的なものですから、それのかかわるイベントについては全く責任は負いませんとか、もし仮にそういうイベントごとで何かトラブル事故が起きたときは、それは誰が責任をとるのか、それがちょっと一つ気になっているところです。

それと多文化共生の中で、僕、今先ほどごみの話を言いましたけども、その渦中にいてるものとしては、もうほどほどにしておいてほしいなと思うところもあるんです。確かに日本も韓国も中国もベトナムも皆それはそれでいいんですけども、例えば、生野区の上がってくるアップのやつがほとんど多文化ばかりな内容だと思うんですね、8割、9割ぐらい。じゃなくて、やっぱり生野区には、日本の方も在日韓国・朝鮮人の方々、皆いっぱいいらっしゃるの、ある程度そういうものも公平にあげていってもらわないと、全く僕は、多文化共生を否定するわけではないですけども、そればかりをあげていると、全くこのエリアは、そういう人たちが住んでいくエリアなんだというふうに決めつけられていくのも、僕は正直なところあんまり好きではないんです。だからメディアというんでしょうか、そういうソーシャルネットワークの立ち上げのやり方も僕は少し考えていただきたいなと。本当にいいことばかりあげるのではなくて、例えばまちでこういうごみの放置を見かけている、その中で写真を撮って、それをあげてもらえれば、スーツケースがあれば大体の目星はつきますよね。だからそういうようなことも活用していただかないと、そんないいことばかり、こんなことやっていますよ、あんなこともやっていますよということだけではなくて、そういったところにも目を向けていってほしいと思っています。多文化共生も僕は大事やと思いますけど、僕はちょっとほどほどで、それと私のところの周りにも留学生なのか、住んでいるのかわからないですが、彼らが生活をして、ここで住んで、日本で住んで税金も払って、町会費も皆払って、その中のコミュニティで生きていこうとしている方もいらっしゃれば、やっぱり来てショートステイというのか、本当に留学だけでここへ来るといふ方もいらっしゃると思うので、それは僕の中ではある程度分けていったほうがいいのかというふうには思うんです。

この間「生野区まちづくりセンター」ですか、の立ち上げの中でベトナムの人たちがご近所の家を掃除をしているというのが出てたんですね。皆さんはどう思われるか知らないですけど、こんなことを留学

生の子らにさせるのかと。お困りごとをどうぞみたいな感じで書かれているわけです。それはちょっと違うだろうと。僕はソーシャルネットワークの立ち上げの内容のやり方ももう一歩ちょっと考えてもらわないと、ほんならちよっところこういうこと言うたらすみません、その近所の子たちは何をしているんやということになるわけです、そんなことまで任せてしまっ。僕はどっちにしてもほほどで、やはり情報のほうも何でもかんでも、そういうことばかり流すのではなくて、そういったところもなるべく精査していただきたいなと思いますし、その管理もどんなふうになっているかということだけをちよっ聞いておきたいです。お願いします。

○田中委員

SNSをどう管理するかというお話ですか。

○森口委員

そうですね。立ち上げ、出ているのは構わないんですけど、それが、例えば区役所発で出ているのであれば、これは区役所発だよというのがわかる、わかったらそれはそれである程度責任の所在が分かる。でも例えば勝手連的に出ているやつがあれば、それは何か僕らもわからない、こんなイベントがありますとといったって、誰が責任者で誰がやっているのということになります。

○田中委員

そうですね。もともとインターネットとか、SNSというのは、誰が管理するという管理者がいないわけですね。

○森口委員

そうですね。でも、ただ、そのグループで立ち上げている人たち、ましてや「生野区〇〇」という名前でも立ち上げているのであれば、それは管理者がいてるわけで、この人らが何の人らで、どんな人らか僕らわからないですから。

○田中委員

それだけいろんな、たくさんの団体が出てきて自己PRをネット上でしているということですね。

○森口委員

そうですね。その中はそういういいことばかりを書くわけですが、でもそんなんじゃないかと、もっといろんな360度とは言いませんけれど、もうちょっと幅広くいろんなところを見ていただくようにしないと、さっきも言いましたけど、そんな留学生の人たちに家のお困りごとの掃除や何やをさせて、これがほんまに多文化共生なのかなと、僕はちょっと一瞬思ったりもしたんです。そういうところをどんな管理を、どういう線引きをされるのか。これは線引きできないのであれば、それはそれでいいですけど。

○田中委員

多分、役所の人がインターネット上何か管理するというのは難しい話ですかね。

○山口生野区長

フェイスブック上の、多分グループが幾つかありまして、区が関与しているというか、官民連携でやっているのは「生野区なんでも掲示板」だけです。あれは元のページを辿っていただいたら、「生野区まちづくりセンター」の木村さんが顔を出して、経緯を全部書いているんです。ルールも含めて書いてあります。例えば宣伝に使わないであるとか、いろんな内容が書いてあります。官民連携で、去年の3月10日に「生野シティプロモーションオープン会議」というのをやりまして、そのときに行政の人間も入っているけれども、民間の方はかなりいろいろ来られて、生野区の、まずシティプロモーション、生野区のまちのイメージをもっとよくしたいというか、まず区民の人自体が生野のまちの楽しみ方をまだ知らないんじゃないか、こんなお店あるよとか、こんなイベントあるよということを知らないんじゃないかということがありまして、まず情報発信をするサイトを作ろうというので、「いくのぐらしドットコム」という、平仮名で検索してもらったらすぐ出ますが、これは割とイベント情報と、いろんな店の紹介とか、コラムとか、田中先生にも書いていただいていますけど、何というか長屋の話とか、いろんな情報が幅広く入っています。私自身も、区長としてではなくて、1 ボランティアのライターとして、「生野な商品」といって生野区の会社の商品を紹介するようなコラムを書いたりして、その掲示板機能として、フェイスブックのグループの中に「生野区なんでも掲示板」というのがあります。投稿内容に関してはあまり管理はしていないんですけども、やっぱりこれ問題あるよねというのは、何人かのライターチームで協議をして下げたりとか、お願いをして消してもらったりというのは、実はしています。あのページに関しては、一応管理下にあるのと、目的が生野区のまちの魅力発信なので、ネガティブ情報はあんまり載らないというか、載せていないところなんですけど、ご意見の中でそういったまちの課題をもっと話し合うような、アップできるような場があってもいいんじゃないかというご意見は、それもまたシティプロモーションにつながる部分もあるかもしれないので、そのチームには投げてみたいと思います。それ以外は申し訳ないですけど、管理できないものばかりです。

○田中委員

ありがとうございます。ちょっと時間が押してきましたので、お二人、さっき、高岡さんと、それから新井さんとお話しくださることがあったと思うので、少し手短にお話しくださったと思います。

○高岡委員

先ほど林寺の室谷さんからお話があった西部地域の林寺小学校の、

区政会議代表として、賛成校だけで話を進めていくという話が出ましたけれども、うちのまちづくりの中で、委員さんの意見ですごくありましたのは、役所からいろいろ出てくださいというお話はよく電話かかってきたりしてあるんですけども、学校設置協議会のする日にちとかの案内が届いてない、だからもう一回ちゃんと話聞きたいなと思っていても、どういうふうに出席させてもらったらいいかかわからないというお話を、この間聞いてますので、やっぱり賛成でもちゃんと、賛成です、賛成ですって言わないと、一応、賛成やむなしで賛成、反対ではないけども、やっぱり話の進み方が違うという意見で、林寺の代表は出ていると思うんですけども、やはりこれから大事な、自分たちの地域にもかかっている再編ですので、代表者をそういう中に出していただきたいと思っておりますので、ここで伺いたいと思っております。

○田中委員

ありがとうございます。

○服部委員

すみません。ちょっとお願いできますか。

○田中委員

手短かにお願いします。

今のお話に関連することであればどうぞ。

○服部委員

はい。すみません。林寺さん、私一人だけ賛成のものがいてるんです。今学校の再編の分で、西生野小学校の服部と言いますけども、先ほどちゃぶ台をひっくり返してという話を聞いたんですけど、そんなこと言うてません。私ずっといてますから。私が言うているのは、林寺さんも舎利寺さんもみんな出てきてもらってください、その場で反対の意見は、反対の意見でみんな話し合えよう。

○高岡委員

だけど、その案内がわからないんです。

○服部委員

いつかに出てるはずですよ。それ出てなかったら向こうの責任です。私はみんな出てもらって、それでいかんところはいかんところで直していこう、賛成は賛成でいこうという話はちゃんとしてます。

○高岡委員

学校の校長の案内も2日前に来ましたけども、2日前はほかに予定が入っているから、私は行けなかったんです。という校長先生のお話もありまして、会議のある日がわからない。

○服部委員

多分、その話はしてないと思っております。私がいてて、多分、その話は出てなかったと思うんです。けどもみんな寄ってもらって反対の者は反対の意見をしてもらって、いいところを採って行って話をしていっ

たらどうやという話はしてます。だけども、そういう呼んでないとかはないです。この前、今宮中学校、小中一貫校ですね、そこの見学会がありまして、見学の案内が回ったと思うんですけども、来ていただいたのは西生野小学校2人と生野南小学校2人と、4人だけです。その学校を見に来てもらってどういうところが良くなっているのを見てほしい、そう思って私らも見に行っただけですけども、行った者は4人です。だから、また見学会しないといけないなという話はしてます。

○高岡委員

見学会じゃなくて、意見を交換する会の中に入りたいという話です。

○服部委員

そう、だからその意見を交換する場所に出てきてくださいということです。

すみません。以上です。

○田中委員

ありがとうございます。最後に新井さん。

○新井副議長

すみません。先ほどお話ありました、9つの学校がなくなってこどもがいなくなるということもあったんですけども、そのこどもたちがいなくなるのではなくて、そのこどもたちがより良い公教育を受けられるように、未来のこどもたちのために動いているように私は思います。

あと防災について一番いいことは、本当にご近所地域が、人と人が顔を見合わせることで、どこに誰が住んでいるかわからない地域にしないことが一番だと思います。自転車のマナーが悪いということに関しては、サイズの合わない自転車に乗っている方が多くて足がつかないので、飛び出しなどに対応できない、まともにこけているんです。見守りで朝立っているんですけども、朝の自転車のスピードの速さは本当に尋常じゃないです。本当にゆとりをもって出てきていただきたいなということと、あと車のほうもスピードを緩めません、なので本当に皆さん自身が気をつけていただきたいなと思います。

あと一件ご相談を受けたことがあるんですけども、生野区でない人が、生野区で差別発言をする、ヘイトスピーチに怯えている方がいらっしゃるんです。お年寄りとか、立場の弱い人たちが心を痛めています。児童虐待もそうです。新聞やテレビでにぎわっていますが、助けてあげられた命を消すことのないように、社会情勢がどうであれ、ここに暮らす人たちが気持ちよく生きていけるように、みんなでそれを許さないようにスクラムを組んでいってほしいと願います。本当に生きていく力を養いながら、人に優しい生野区になるために、これからも考えていきたいと思っています。

○田中委員

ありがとうございました。

もう時間が9時を過ぎてしまっています。ただ、今日言えることは皆さんそれぞれが生野に対してすごい思いを強くもってらっしゃるということで、その思いがいろんな発言の表現に出てきたと考えております。今回は、これで終わるということなんですけど、またいろんな場面で、こういうお話し合いの場が持てたらと思いますので、今日は本当にご意見言っていたいただいた方も、聞いていただいた方もどうもありがとうございました。つたない司会で申し訳ございませんでした。これで終わらせていただきます。

○和田議長

田中委員どうもありがとうございました。

ここで本日のご意見を踏まえて、関係者としてご出席の方から何かご意見はございませんでしょうか。多田会長どうぞ。

○多田様

すみません。異文化交流、多文化交流ということでちょっとお話させていただきます。北巽の川上連合振興町会長さんのところで日生日本語学園という学校があります。ここは非常にいい学校でございまして、我々も地域で留学生の方たちと交流を深めようというイベントを行っております。これで地域の高齢者、60歳から70歳の方、40人と日生日本語学園から10人ぐらいの留学生に来てもらい、そこで交流会があるわけです。最初どういうふうにするのかなと思ったら、おじいちゃん、おばあちゃんが結構話突っ込んでくれるんですよ。結婚どうしようか、人生どうしようか、恋がどうやとか、生活どうしようかとか、いろんなことを話し合いをして非常に仲良くなっていった。それと、もう一つはこの前の一斉パトロール、日生日本語学園から地域へ入っていただきまして24人ほど、地域の人たちと一緒に地域の見守り、巡回、パトロールをしてもらいました。それも非常にいいアンケートの結果が出ています。ですからわずかですけど、少しずつそういう面で地域の留学生の方、外国の方たちと異文化交流というのを地域で取り組んでいただければ、僕はどんどんそういう誤解というんですか、なかなか進まないと思うんですけど、その誤解が解けていくように、やはり人間対人間のつき合いはできていくのではないかと思いますので、ぜひ、そういうことで川上会長のほうでいろいろ進めておられますので、ぜひそういうことの橋渡しは川上会長のほうで相談していただいて、留学生の派遣とかもしていただければよろしいと思います。

以上です。

○和田議長

どうもありがとうございました。それでは最後になります。この区

政会議の初代議長であります北尾様より、ご意見を頂戴したいと思っております。

○北尾様

大変寒い中、また、お疲れにもかかわらず、多数ご参集いただきましたこととお礼申し上げます。また、いろいろな件で活発なご意見を頂戴いたしました。これを参考に、また区役所のほうも次の会を思いをすくうべく取り組んでくれることであろうと思っております。ご承知のとおり区長以下、区役所の方は生野で住んでいるという方はいてない。しかし、生野を良くしよう、生野へ来てくれたことによって真剣に取り組んでいただいておりますことに感謝を申し上げながら、それを受けて区政会議の委員の皆様方も取り組んでいただきたいと考えております。そしてこの区政会議で行われた意見を地元でしっかり役員会で報告をいただきたい、こういうことで大変な議論を戦わせておる、ましてや学校問題はなかなか簡単にまいません。そういう点で時間がかかろうかと存じますが、真剣に考えてやっていただいて、こどもの未来にプラスになるようご協力を頂戴したいと存じます。

また、各国の方が住んでおるという点で、私は生野区でも最も上品な東中川、今里新地を抱えた地域に住んでおります。20カ国ほどの人がおるといことでございまして、1年ほど前から校長先生からたびたび報告をいただきました。その生徒がもう中学校へ入ったと。中学校の校長先生が私に言ったのは、「あんな乱暴なやつかなわんな、小学校でもっとしっかりした指導してもらわな困る」、こういうことでございまして。そんな方ばかりではありませんけれども、そういう場所でもございまして、いろいろな意見が出てくるところでございまして。しかし、生野で住む以上、地域を良くしよう、こういう会合に携わっていただきながら、皆様のご貢献をお聞かせ願ひ取り組んでまいりたいと存じますので、どうぞよろしくお願ひ申し上げます。ご苦勞いただきましてありがとうございました。

○和田議長

どうもありがとうございました。

それでは、本日の会議を踏まえまして、山口区長から一言お願ひいたします。

○山口生野区長

皆さん長時間にわたりいろいろなご意見ありがとうございました。私も思いがあっていっぱい言いたいことあるんですけど、受け止めて今日は終わりにしたいなと思っております。

1つだけ、私は校長だったこともありますし、ずっと教育には塾の講師から何から、教育ジャーナリストであったり、さまざまな場面で関わってきたんですけども、こどもって大人の姿を見ていて、その大人が魅力的であればあるほど、大人になりたいなと思うものなんで

す。それが勉強する動機であったり、スポーツを頑張る動機であったり、マナーを守ろうという、格好いい大人になりたいという動機だと思うんです。また、私たちの年代になりますと、地域でいろんな活動をされていて仲のいい、特に私女性ですので、自分の住んでいる地域の女性部の人たちがいつも仲よさそうに、いろんなイベントとかをやっているのを見ると、ああいうふうに地域にずっと関わって友達がいるってとてもすてきなと思うんです。例えば歴代のPTAの会長さんでも、「もうこれとは40年つき合ってるねん。昔こんな悪いことしてな」とかいう話を嬉しそうにしている、その地域に友達がいる、地域に仲間がいて、そして地域で活躍していて、楽しそうに暮らしている大人の姿こそが、次の世代の生野に来て、また生野に帰ろう、一回外に出ても生野に帰って、生野で、まちを支えようと思うこどもたちを育てるんだと思っています。ですから今日皆さんがすごい真剣にいろんな話をしてくださって、その姿勢そのものが、また次の世代にちゃんと引き継がれるように、私たちも発信もしていけないなと思っていますし、また地域でそれぞれこどもたちに、若い人たちに、ぜひ格好いい姿を見せ続けていただければと思います。

今日は本当にありがとうございました。

○和田議長

どうもありがとうございました。

本日は、生野区の来年度の取り組みについて、委員の皆様から非常に活発な意見交換がなされたと思います。区政会議は、我々委員が区民を代表して区政に参加する大切な場です。地域のまちづくり協議会などからご推薦された委員の方々につきましては、地元の皆様方に本日の会議の内容をお伝えいただきたいと思います。

それでは、副議長から一言お願いいたします。

○新井副議長

区政会議は、生野区のあり方や将来について、区民同士が率直に情報交換をしたり、意見を語り合える場であります。我々委員、これからも生野区のため、生野区の将来のため、区役所とともにしっかり考えていきたいと思っておりますので、今後もどうか活発なご意見、ご発言をよろしくお願いいたします。

○和田議長

それでは、これにて本日の区政会議を終了いたします。

委員の皆様、大変お疲れさまでした。ありがとうございました。